

青森県新幹線モーダルシフト等

協議会名: 青森県列車荷物輸送推進協議会

協議会構成員

東日本旅客鉄道株式会社、青森県、株式会社ジェイアール東日本物流、ヤマト運輸株式会社 (順不同)

【事業実施背景】青森県発の貨物は年間約8千万トンで推移しており、このうち約9割の輸送方法が自動車となっている。「物流の2024年問題」や「CO₂排出量削減」「地方創生」等、社会的課題解決へ向けて新幹線の客室を活用した高速荷物輸送でモーダルミックス※1などの輸送手段の充実に取り組む。また、2025年4月から、新青森・東京間で新幹線の客室を活用した多量輸送を実施しており、積載率を高めることによりモーダルシフトを加速化させる。

※1【モーダルミックス】⇒鉄道、船舶、バスなどの様々な交通手段の特性を活かして組み合わせることで利用者の利便性向上や効率的な輸送を目指す考え方

事業内容

- Point1 荷主ニーズ把握に向けた調査・分析
- ①青森県からの新幹線荷物輸送を用いた定期輸送サービスの利用候補事業者のピックアップ
 - ②新幹線定期輸送の利用条件の整理
 - ③利用条件を基にした事業者の有無確認

- Point2 新青森・東京間で客室を活用した新幹線多量荷物輸送
- 運 行 日: 毎週金曜日
- 輸送列車: 東北新幹線 臨時列車 はやぶさ50号(E5系10両編成)
- 輸送区間: 新青森駅8時29分発→東京駅11時44分着
- 輸送形態: 荷物輸送1～2号車(荷量: 最大200箱程度)、旅客輸送3～10号車
- ※多量輸送以外にも、新幹線を活用した小口輸送を随時実施



輸送イメージ

想定事業実施効果

○新幹線の活用により、ドライバー拘束時間減や環境負荷低減に貢献するだけでなく、青森県産食材を高鮮度で大消費地である首都圏に運ぶことで地方創生に寄与することが可能。環境、労働、輸送効率の観点から下表の数値を目指して取り組む。

社会的課題解決への貢献効果	トラック	鉄道	
トラック運転手問題 (ドライバー拘束時間減)	12,958 時間	2,190 時間 (▲10,768 時間)	※ 新青森→東京の約 700 kmで新幹線車両 2 両分約 4t 分の輸送を 1 年間トラック 1 台から新幹線とファーストマイル・ラストマイル輸送にシフトした場合を想定し実拘束時間を試算 ※ 青森市内集荷、東京都内納品の場合で、積み下ろし各 0.5 時間、集荷(納品)箇所・新幹線駅間移動 1 時間、都市間移動 8.5 時間(休憩除く)、インターバルを 11 時間と想定。
CO ₂ 排出量 (環境負荷低減)	212t	20t (▲192t)	※ 新青森→東京の約 700 kmで新幹線車両 2 両分約 4t 分の輸送を 1 年間トラック 1 台から新幹線にシフトした場合を想定すると、CO ₂ 排出量としては年間約 192 t、約 74 世帯分の削減が可能。

※ 営業用貨物車と鉄道貨物との比較
※ 国土交通省「自動車輸送統計年報」「運輸部門における二酸化炭素排出量」、環境省「令和 4 年度家庭部門の CO₂排出実態統計調査」、野村総合研究所「持続可能な物流構築に向けた新幹線活用可能性」より数値等引用し、当社にて試算